

株式会社エフピコ  
2026年3月期 決算説明会 質疑応答（サマリー）  
(2026年4月30日)

Q：今期の業績予想は未定だが、値上げも踏まえた増収増益の方向感について、また、前期のシェア拡大の取り組みは今期も継続する見通しなのか教えてほしい。

A：増収増益を目指していく。特に増益を重視し、コスト増加に対する価格転嫁は業界をリードする形で対応していく。値上げ活動中は一時的にシェアの競争を抑えるが、顧客の理解は得やすい状況にあり、交渉は長期化しない見込み。ドリップポケットを含めた新製品の評価も高く、シェア拡大への取り組みは継続できると考えている。

Q：「ストア to ストア」の取り組みについて、300社 10,000店舗の達成時期を教えてください。

A：3年間で想定しているが、予想以上に賛同企業が増えており、早期達成の可能性もある。

Q：中東情勢を踏まえたリサイクル原料（PS・PET）の調達・価格への影響について教えてください。

A：リサイクルPET原料の価格はバージン材の高騰を受けた需要増により反転上昇の可能性があるが、バージン材並みの水準までは上がらない見込み。PSは自社回収ルートを構築しているため、他社の動向の影響は受けない。

Q：物価上昇による需要減の懸念の中で、数量の見通しを教えてください。

A：見栄えやドリップポケット等の機能性など付加価値が評価されることで、競合に対する優位性を継続できると見ている。

Q：人口減少による国内市場縮小の影響をどう見ているか教えてください。

A：生鮮分野は頭打ちの可能性がある一方、惣菜や宅配弁当、冷凍食品は需要が伸長している。世帯人数の減少や高齢化を背景に中食需要が拡大しており、容器全体の需要は引き続き成長すると考えている。

Q：今後3～4年の設備投資が増加する中で、新OPP以外の投資方針を教えてください。

A：年間約70億円規模で既存設備の更新や合理化投資が必要。生産性が向上しており、今後はむしろ設備よりも人材確保が重要と考えている。

Q：エコトレは再生原料100%で製造されているのか教えてください。

A：市場から回収した原料は約30%。残りの70%は場内端材とバージン原料で構成されている。

Q：業績予想が増益となった場合、配当予想が見直される可能性はあるか教えてほしい。

A：配当性向 40%を目途とした累進配当の実施が基本方針。配当予想の 73 円は累進配当に基づく下限として発表している。

Q：中東情勢を受けて、顧客の引き合いや買いだめなどの変化はあるか教えてほしい。

A：製品特性上かさばるため買いだめは起きにくい。6 月末までの安定供給のアナウンスもあり、大きな変化は見られない。

Q：冷凍分野の売上実績と今期の見通しを教えてほしい。

A：2026 年 3 月期の冷凍専用容器の売上は 20 億円弱。今期の見通しは難しいが、特に介護分野での拡大が期待され、需要次第では成長が加速すると見ている。

Q：中東情勢を踏まえた原材料の安定調達に向けた取り組みを教えてほしい。

A：PS や PET、PP について、原料メーカーから 6 月末までの安定供給の確約を得ており、今後も安定供給の確約期間が徐々に延びていくと予想している。PET については商社経由で調達ルートが多様化に取り組んでいる。

Q：追加の値上げの可能性について教えてほしい。

A：まずは 6 月 1 日から 20%以上の値上げを実施する。その後の追加値上げは未定だが、原油・ナフサ動向次第で実施の可能性はある。

Q：溶解分離リサイクルプラントを一時停止している理由を教えてほしい。

A：バージン原料の生産を優先するための停止であり、スチレンモノマーの調達が安定すれば再開予定。

Q：マテリアルリサイクルとケミカルリサイクルの評価を教えてほしい。

A：マテリアルリサイクルはコスト面で優位性があるが、劣化の課題がある。ケミカルリサイクルは循環性に優れる一方で経済性に課題がある。ポリスチレンをスチレンモノマーに戻す解重合は現実的な選択肢として研究中。

Q：中東情勢に伴う電力料や物流費の上昇リスクを教えてほしい。

A：電力料は年間約 10 億円程度上昇する見込み。物流費も燃料価格次第で上昇の可能性はある。

Q：値上げ 20%の根拠と今後の方針を教えてほしい。

A：現時点の原料価格を前提に試算しており、今後も原料価格の変動に応じて検討する。

以上